

2024\_1219「月明のオーロラ（写真）」日々の理科 3787号

お茶の水女子大学 サイエンス&エデュケーション研究所 田中 千尋

スウェーデンの北極圏で初めてオーロラを観たのは、1995年の12月でした。雪原を走る「犬ぞりツアー」のそりの上から見たのです。その後、さまざまな友人を伴って毎年のように現地に行きましたが、やはり月明のない「暗夜」のほうがオーロラはよく見えると思い、できるだけ月の影響のない日程で渡航を計画していました。しかし、ここ数年は「月明のオーロラ」にも魅了されるようになりました。

確かに満月に近い月夜の晩には、オーロラの輪郭がやや見にくくなることは確かです。しかし月明の中のオーロラは透明感を持っていて、非常に美しいと思えるようになったのです。写真では実感できないと思いますが、月夜の晩に現地でオーロラを観ると、まるで手の届きそうな場所にオーロラの実体を感じることもあります。あの不思議な感覚を、もう一度体験したいと思っています。

(2024年12月中旬／スウェーデン・ヨックモック郡・ポルユス／東京から遠隔観測)

